

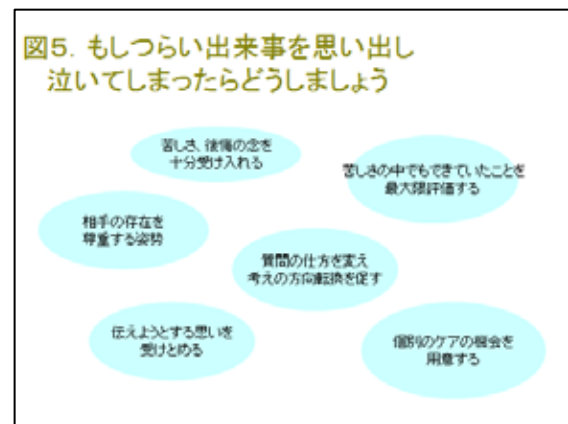
また、辛いことを思い出してしまった参加者がいた時には、受容的に対応すると良いでしょう（図5）。

そして、サロンで世話人的役割を担うボランティアを養成するための研修会では、ゲートキーパー養成のための研修プログラムも役立つと考えられます。

なお、被災地では、住民同士が話す時、それぞれの被災状況や過酷な生活の中で、「自分の状況が理解されない」といったことや、「心無い言葉をかけられ傷ついた」等とお互い話をすることに葛藤が生じることがあります。

災害復興においても、インフラが整備されても、住民相互の交流が十分でないと、コミュニティは成立しません。

地域再生という観点でも、地域住民のつながりや絆を構築できるようなことが重要です。特に、強い被災を受けた仮設住宅集落では集会場が設置され、そこでのサロン活動を実践し、安心して語れる場づくりが行われている地域も多いため、今後の活動が期待されます。



【参考】

○ほっと安心手帳（内閣府）

災害を経験した方、家族や友人を支える方向けの心のケアのための手帳

※以下のURLからダウンロードすることができます。

<http://www8.cao.go.jp/souki/koho/anshintetyo.html>

<全3種類>

<第一弾>



災害発生直後～半年後

<第二弾>



災害発生半年後～

<第三弾>



災害発生一年後～